

「第2回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修(理論編)」開催の報告

連合会は10月14日～16日、28日～30日の計6日間、東京都(秋葉原)において、「第2回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修(理論編)」を開催し、25都道府県より82名が受講した。

本研修は、昨年度に引き続き、社労士が年金に関する業務を行う際の前提として、公的年金制度の現状と課題を踏まえ、その理念・意義・役割等について改めて確認し、十分に理解するとともに、壮年・中年期を対象とした「ライフプラン」設計及び定年後の「セカンドライフ」設計や、「企業年金」の導入から継続支援・投資教育までアドバイス可能な「付加価値能力」の向上を図ることを目的として開催されたものであり、今回の「理論編」修了者を対象とした「実践編」の研修を来年2月に開催する予定である。

本号では、本研修のカリキュラムを策定した、社会保険労務士総合研究機構「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修制度プロジェクト」(年金PT)の原佳奈子プロジェクトリーダーによる研修総括とともに、6日間の研修概要を掲載する。

公的年金制度及びその周辺知識に関する研修(理論編)の実施について

社会保険労務士総合研究機構「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修制度構築プロジェクト」(年金PT)

原佳奈子 プロジェクトリーダー

平成28年10月14日(金)、6日間にわたる理論編の研修がスタートしました。昨年度から始まったこの研修は今年で2回目を迎えましたが、全国各地から昨年を上回る人数の先生方にご参加いただきました。その中には、昨年受講された方からのご紹介で今年申し込みをしたという参加者や、一般企業の人事部等に勤務されている参加者もいらしたので、少しずつですが、確実にこの研修の「輪」が広がっていることを実感しました。

この研修は、年金制度の専門家として制度内容に精通していることを大前提として、これまであまり共通認識としてこなかった年金制度の現状・課題や制度理念・意義・役割といったマクロ的・総論的な内容について再認識し、さらには、今後ますます必要となってくる個人への将来生活設計・老後所得保障に関するアドバイスや経営者へのコンサルティングの一要素となっている企業年金制度とそれに付随する従業員教育などに対応できるよう、それらを「公的年金の周辺知識」として位置付け習得することで、各方面でアウトプットを行っていただき、社労士の業務の幅をさらに広めることを目指すものです。

参加者からは、「業務の幅を狭めて考えていたように思う」、「年金の知識だけでなく、今後は社労士もここまで知っていなくてはいけないのかと反省しました」という感想や「事業主に定年延長などの話をする際、リタイアメントプランなども含めて納得性を高めて話す必要性が大変だと思っており、大変参考になった」、「通常の相談業務で60歳以降のプランについて質問が多く、期待以上のものを持ち帰ることができたと思う」といった感想をいただきました。さらに「この研修に参加していなければ絶対に知り得なかった情報が満載の内容だった。今後の業務に必ず活かしたい」といった力強いお言葉もいただきました。一方で、FP資格をすでに保有されている数名の参加者からは「FP関係の研修は別にした方がよいのではないか」などのご意見もいただきました。

2年目となる今年も理論編を無事6日間終了することができ、皆様から一定の評価をいただき、年金PTメンバー一同、安堵するとともに確かな手ごたえを感じております。また同時に、今年新たによりよい研修を構築していく上での課題も見えましたの

で、課題については年金PT内で検討し、継続的な研修の実施に向けて、今後に活かしてまいりたいと思っております。

現在、年金PTでは、来年2月に実施予定の実践編に向けて準備を進めております。実践編では、ほぼ全ての時間をグループワークで進めていく予定です。その中で、リタイアメントプランなど将来生活設計を具体的に組み立てることや年金に関する情報発信をしていく上でわかりやすく伝えるにはどうす

ればよいかといったことを実践式の研修で進めていく予定です。さらには、企業年金についての外部講師による事例紹介や事業主と話すために必要となる知識の深掘りなどのカリキュラムも予定しております。詳細内容については、別途、理論編を受講された方へご案内させていただく予定です。

年金PTでは、参加者の皆様からの貴重なご意見を承りながら、引き続き、より有意義な研修の実施を目指し取り組んでまいりたいと存じます。

研修1日目 11:00~18:40

開講挨拶

全国社会保険労務士会連合会 大西 健造 会長



講義に先立ち、大西健造会長が開講挨拶を行った。

●挨拶要旨

今回は昨年度に引き続き、第2回日の開催となるが、北海道から沖縄まで前回は上回る多くの方から申し込みをいただきました。

昨今、公的年金をはじめとした老後資金設計等の話題が各メディアで取り上げられることが増えていますが、他の資格者の活躍が目立っている現状があります。そのような中、公的年金の専門家である我々が、その知識・経験を土台として、ライフプランニングや企業年金等の周辺知識を習得することにより、各メディアで発信をする力を身につけていただくことなどを目的として、この研修を企画いたしました。

近い将来、この研修を修了された方が、各メディアで活躍され、社労士制度の発展や信頼度の向上に寄与していただくことを期待しております。

公的年金制度の現状と課題

厚生労働省年金局 江口 満 企画官

講義内容 (抜粋)

1. 社会保障の給付と負担
2. 公的年金の概観
3. 公的年金の改正経緯～平成16年改正による財政フレームとその完成まで～
4. 社会保障・税一体改革後の年金制度に係る議論～社会保障制度改革国民会議の報告書から平成26年財政検証まで～
5. 年金部会の整理と年金改正法案

公的年金制度の意義・理念の確認

東京都社会保険労務士会 原 佳奈子 氏



講義内容 (抜粋)

1. 公的年金制度の理念・意義の再確認
～学生の声から～
2. 公的年金制度の課題整理
～年金部会の議論の整理から～
3. 情報発信の担い手として

公的年金制度への不信や 誤解をとくために

慶應義塾大学商学部 権丈 善一 教授



講義内容 (抜粋)

1. 今進められている社会保障の改革とは？
2. 将来世代のための年金改革の本当の必要性
3. 社会保障制度改革国民会議での議論
4. 社会保障は何のため？
「Output is central」という考え方
5. 公的年金への不信や誤解をとくために

研修2日目 10:00~18:40

ライフプランニング

東京都社会保険労務士会 川端 薫 氏



講義内容 (抜粋)

1. ライフプランとは
2. 60歳までのライフプランニングについて
3. 主なライフイベントと必要資金
4. リスクと保険
5. 60歳までのCF表作成と見直しポイント

研修3日目 10:00~16:00

ライフプランニング

東京都社会保険労務士会 川端 薫 氏

講義内容 (抜粋) ※2日目の続き

6. 金融商品の知識

リタイアメントプランニング

埼玉県社会保険労務士会 望月 厚子 氏



講義内容 (抜粋)

1. リタイアメントプランとは
2. 60歳以降のプランニング
3. 老後の必要資金

研修4日目 11:00~18:40

リタイアメントプランニング

埼玉県社会保険労務士会 望月 厚子 氏

講義内容 (抜粋) ※3日目の続き

4. 老後資金準備に適した金融商品知識
5. 個人年金保険
6. 介護保険
7. 相続の知識
8. 成年後見制度
9. 60歳以降のCF表の作成と見直し

研修5日目 10:00~17:40

企業年金制度の現状と課題

厚生労働省年金局企業年金国民年金基金課 青山 桂子 課長

講義内容 (抜粋)

1. 現状と課題
2. 企業年金部会での議論と平成27年度税制改正
3. 確定拠出年金法等の改正
4. 確定給付企業年金の改善
5. 確定給付企業年金のガバナンスについて

企業年金等の種類と各制度の概要について

企業年金連絡協議会 田川 勝久 会長



講義内容 (抜粋)

1. 企業年金制度の概要
2. 確定給付企業年金制度の概要（仕組み、給付、財政検証、制度導入時のポイント等）
3. 国民年金基金
4. 中小企業退職金共済制度
5. 特定業種退職金共済制度
6. 特定退職金共済制度
7. 小規模企業共済制度
8. 勤労者財産形成促進制度
9. 個人年金
10. 公的年金の補完となる企業年金の活用

確定拠出年金制度（企業型・個人型）

東京都社会保険労務士会 原 佳奈子 氏

講義内容 (抜粋)

1. 年金制度の体系
2. 老後資金準備からみた全体像
3. 確定拠出年金とは何か
4. 給付建てと掛金建ての制度
5. 確定拠出年金（企業型）
6. 確定拠出年金（個人型）
7. 給付
8. 脱退一時金
9. 税制
10. ポータビリティと個人別管理資産の移換
11. 運用方法
12. 加入者教育と情報提供 など

研修6日目 10:00~16:00

資産運用の考え方と従業員教育

日本商工会議所DCプランナー研修企画委員 吉田 聡 氏



講義内容 (抜粋)

1. 資産運用の考え方について
2. リターンとリスクについて
3. 私たちに出来ること など

経営者と企業経営を語り合うための会計知識

日本商工会議所DCプランナー研修企画委員 吉田 聡 氏

講義内容 (抜粋)

1. 企業会計の基本
2. 会計の文法
3. 決算書の構造とその見方
4. 財務分析の基本



「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修（理論編）」に出席して

東京会 小池 淳子

現在、勤務社労士として、勤務先の確定拠出年金のマッチング拠出や財形年金の募集に伴う社員への投資教育やセカンドライフ研修等実施の必要性に迫られており、今回の研修は最新の情報を得る絶好の機会と思い参加させていただきました。

6日間にわたる23科目の時間の中では、その分野の第一人者である先生方から貴重なお話を伺うことができ、それぞれがとても興味深い内容でした。特に、慶応義塾大学の権丈善一教授による「公的年金制度への不信や誤解をとくために」の授業では、今までの年金制度について

の認識を覆され、社労士として改めて襟を正す思いでした。

また、研修全般を通じて社労士でもありFPでもある先生方の授業が多かったのですが、社労士業務の枠を超えて、実際に必要となる知識は何か、今後何を学ぶ必要があるのかということを教えていただきました。

来年2月には実践編の研修が予定されていると伺いましたので、それまでには自分自身もさらに勉強して周辺知識の理解をすすめた上で、ぜひ参加させていただきたいと思います。

このような勉強の機会を与えていただきました連合会の皆様に心から感謝申し上げます。



FPの役割と幅広く年金を学ぶ＝「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修（理論編）」を受講して

沖縄会 野口 安計

2回にわたる研修は、ファイナンシャルプランナー（FP）2級・AFPの資格を得ている私にとって、FPの役割・仕事について改めて確認するとともに、年金の幅広い知識を学ぶ絶好の機会となりました。

社労士を「ピンポイント」の業とするなら、FPは独占的に何か出来るわけではないが「幅は広い」というところでしょうか。2014年の試験日の夜、合格を確信し同夜からAFP受験の通信教育を始めました。年金を中心に仕事をしたいが、そのためには公的年金、個人年金の知識だけでなく、社会・経済全体での年金、ライフプランでの位置付けが必要と考えました。

一連の講義とともに、来年1月スタートする「確定拠出年金・個人型」の詳しい解説を聴くことが出来たのは貴重でした。沖縄に帰ってすぐ相談で役立ちました。私は年金事務所の相談

員も務めています。「将来、年金がもらえるか、大丈夫か」という声を多く聞きます。権丈善一教授の「公的年金制度への不信や誤解を解くために」を基本に、疑問に答えることが出来ます。

さて、60歳までメディアの仕事に携わっていた視点から見ると、社労士個人、県会、連合会の社会へのアピール力は足りないと考えます。コーポレート・アイデンティティ（Corporate Identity：CI）がもてはやされたのは、1980年代のバブル経済のころ。今やすっかりすたれてしまいました。企業が団体の特徴や個性を明らかにし、社名やブランド名称、ロゴなどを新たにイメージアップを図ろうとするものです。

昨年からはじめた年金の研修を契機に、社労士個人が力量を高めるとともに、社労士界はCIが必要なのではないかと。私自身としては、来年2月上京し「深掘り」せねばなりません。